**ハンドマイク街頭演説原稿例　国会は「疑惑」の真相究明を**

二〇二〇年十二月七日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策をうったえさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、新型コロナの重症患者が全国で増え、大阪や北海道では医療機関への自衛隊派遣を要請するなど、一部の自治体で医療崩壊がはじまっています。このような深刻な事態のなか、菅政権と与党は野党の会期延長の要求を拒否し、臨時国会の閉会を強行しました。どうやって感染爆発を防ぐのか、くらしと営業をいかに守るのか。国民の命がかかった重大局面で、菅政権と与党のまさに責任放棄ではないでしょうか。日本共産党はＧＯＴＯトラベルの見直し、大規模・集中的な検査の拡充と医療現場への支援の抜本的強化などさらなるコロナ対策を引き続き求めていきます。

埼玉県では、１０００を超える身近な医療機関で、発熱時の新型コロナの診察を受けられるようになりました。県のホームページから病院名を検索できます。日本共産党は医療機関や高齢者施設などの「社会的検査」の拡大へ、さらに力を尽くしていきます。

　みなさん、「桜を見る会」の前夜祭で、安倍元首相側が費用補填をした疑惑もますます深刻になっています。この間の新たな事実からも、「明細書はない」「事務所は関与していない」との数々の国会答弁が、まったくのウソであったことはいよいよ明らかではないでしょうか。安倍元首相が１年間にわたって虚偽答弁を続け、国会と国民を欺いてきたことをそのままにするわけにはいきません。安倍氏の証人喚問を実現し、真相の徹底究明をすることは、国会の重大な責任です。加えて、吉川元農水大臣が、大手鶏卵生産会社から５００万円の現金を受け取った疑惑も報じられています。事実とすれば、深刻な贈収賄疑惑となります。菅首相は、安倍政権を支えた元官房長官としても、自民党総裁としても、疑惑隠しを続けることは決して許されません。日本共産党は、国会での疑惑の徹底究明を求めて引き続きがんばります。

　みなさん、菅首相による日本学術会議への人事介入について、国会閉会後もこのままあいまいにするわけにはいきません。この問題は、決して学者だけの問題ではありません。国民の人権と民主主義の前途がかかった大問題です。日本共産党は、この問題の唯一の解決方法である任命拒否の撤回を引き続き求めてがんばります。

かつて、滝川事件など学者への弾圧をきっかけに国民の言論が抑圧され、あの悲惨な侵略戦争へとつきすすんでいきました。この歴史を決して繰り返してはなりません。国民主権と民主主義の実現をめざし、一貫して反戦平和を貫いてきた日本共産党を今度の総選挙で何としても大きくしてください。野党連合政権の実現で、強権政治を推し進める菅自公政権を倒し、新しい政治をごいっしょに実現していきましょう。

　最後に、日本共産党が発行する「しんぶん赤旗」の購読をお願いしまして、この場所をお借りしてのうったえを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）